

なぜ「わからない」が選択されるのか

サーベイ実験による情報提示が DK に与える影響の分析

Web Appendix

2016年9月6日

付録 A 無作為配分の方法

楽天リサーチのアンケートシステムには質問レベルで回答者を無作為配分する機能が存在しない。さらにいうと、回答者を無作為に配分するというシステムそのものを実装していない(2014年12月時点)。そこで本研究では、次に述べる方法で回答者を無作為配分した。①全回答者が回答する画面を1つと、全回答者が回答するわけではない複数(6つ)の画面を事前に作成する。②全回答者が回答する画面に選択肢を6つ設け(A~F)、順序をランダム化した上で、どれか1つを選択しないと次の画面に飛ばないようにする。以上の方法で、本研究では回答者を6つの群に無作為配分している。具体的な調査画面は以下に示す通りである。

The image shows a survey question interface. At the top, it says 'SC1 次ボタンのうちいずれかをお選びください。' (SC1 Please select one of the next buttons.) with a red '【必須】' (Required) label. Below this, there are six radio buttons, each followed by the text '次へ' (Next). At the bottom center, there is a button labeled '次へ' (Next).

図 A.1 回答者を無作為配分するための調査画面

付録 B 争点態度の操作的定義と妥当性の検証

B.1 統制群(画像なし)

用いた質問文は以下の通りである。上段が集団的自衛権，下段が道州制である。

「集団的自衛権の問題についてご回答ください。あなたは集団的自衛権の行使に賛成ですか、反対ですか。」

「続いて、地方分権の問題にもご回答ください。あなたは道州制の導入に賛成ですか、反対ですか。」

選択肢は賛成から反対までの 5 件尺度である。実際の画面では縦一列に表記し、かつ 5.と 6.の間にはスペースを設けている。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対
6. わからない
7. こたえない

本稿では DK を従属変数に分析する際、6.と 7.を 1 つのダミー変数としている。したがって従属変数の平均値(DK=1, それ以外=0)は Satisficer を含めると集団的自衛権が約 0.175, 道州制が約 0.246 となる。NA は DK と異なるという指摘もあるが、ここでは両者を特に区別しない。「わからない」から「こたえない」と回答した可能性を排除できない以上、両者を区別することの意味はないと考えたからである。なお、NA を DK の部分集合と解すれば、NA を DK に含めることには妥当性がある。

B.2 処置群(政策, 政党, 政策+政党)

用いた質問文はそれぞれ以下の通りである。上段が集団的自衛権，下段が道州制である。画像を提示しているため「以下の意見を参考に」が追記されているが、その他は共通する。

「以下の意見を参考に、集団的自衛権の問題についてご回答ください。あなたは集団的自衛権の行使に賛成ですか、反対ですか。」

「続いて以下の意見を参考に、地方分権の問題にもご回答ください。あなたは道州制の導入に賛成ですか、反対ですか。」

選択肢は賛成から反対までの 5 件尺度である。実際の画面では縦一列に表記し、かつ 5.と 6.の間にはスペースを設けている。

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかともいえない
4. どちらかといえば反対
5. 反対
6. わからない
7. こたえない

B.3 情報提示による分布変動の確認

本稿では政策知識として政策争点に関するメリットとデメリットの情報を、また政党知識として当該政策に対する政党の立ち位置に関する情報を回答者に提示した。政策知識，政党知識とも

に誘導的にならないように配慮したが、実際に誘導掲示となっていないかは、別途検証する必要がある。本稿は掲示内容を「新聞やテレビなどで当該情報が報道されたか」という観点から判断しており(どのような政策争点であっても、当該政策に関するメリットやデメリットの議論には党派性バイアスが介在してしまうことと、予測について真偽を問うことは不可能であることがその理由である)、その意味でも誘導的でないか、確認する必要がある。

下記表は、DKを欠損とした上で、群ごとに賛否の分布が異なるかを検証した結果を整理したものである。従属変数が順序尺度であるため、クラスカルウォリスの順位和検定を行い、さらに有意水準はHolm法により調整した値(調整 p 値)を掲載している。集団的自衛権については賛否の分布はほとんど変わらない。他方の道州制についても、全体の傾向を見ると分布形状は変わらないように思われるが、政策と政党情報を提示した群との関係についてのみ分布が異なる。

表 B.3 クラスカルウォリス検定の結果

	集団的自衛権			道州制		
	順位之差	効果量 r	調整 p 値	順位之差	効果量 r	調整 p 値
統制-政策	-3.859	0.003	0.452	-20.579	0.181	0.504
統制-政党	9.229	0.007	0.775	-34.962	0.029	0.402
統制-政策+政党	-15.253	0.012	1.000	-74.226	0.065	0.049

図 B.3 は、有意差があるという結果となった2群の分布を比較したものである。この図を見ると知識は賛否の変動というよりも賛成強度に対して影響を与えていることがわかる。さらに統制群では比較的「強い」賛成を表明する人が多く、逆に処置群では「弱い」賛成を表明する人が増えている。統制群で「弱く」、処置群で「強く」なっているならば誘導的だがその逆であり、さらに分布が大きく変わらないので、道州制についても知識はDKに対して影響を与えるものと解釈できる。有意差があるといっても効果量自体は極めて小さく(0.065)、その意味でも賛否の分布はほとんど変わらないと考えてよい。

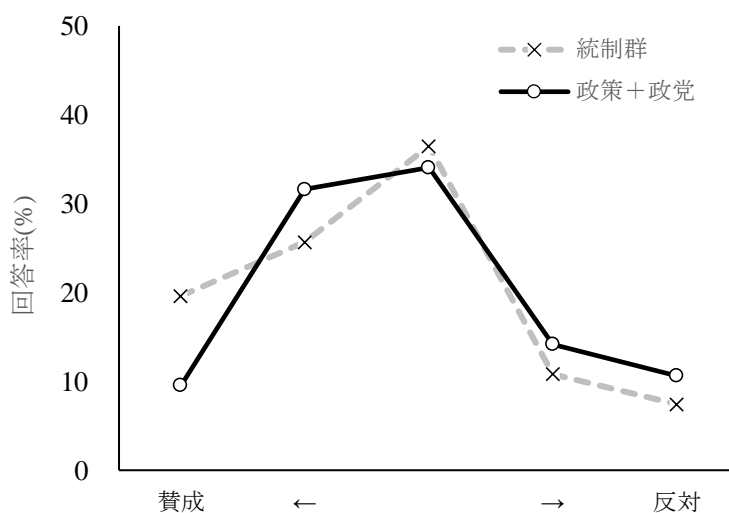


図 B.3 統制群と政党・政策情報群の賛否分布(道州制)

付録 C 共変量の操作的定義と分布

C.1 Satisficer

Satisficer は以下のマトリクス型の設問における「左から 2 番目を選択してください」において左から 2 番目以外を選択した回答者とした。なお、1~4 項目および 6~9 項目の順序はランダムマイズしているが、識別項目の位置は中央がよいと考えたため固定している。

「以下の政治に対する意見について、あなたのお気持ちに近いものを 1 つ選んでください」

- 1) 政治とは積極的に働きかけるものである
- 2) 政治とは、なるようにしかならないものである
- 3) 政治的なことがらには、なるべく関わりたくない
- 4) 政治に関心をもつより、自身の生活を充実させたい
- 5) この項目は左から 2 番目を選んでください
- 6) 政治問題に対して、はっきりとした意見を表明したくない
- 7) 政治問題は、知っていてもわからないふりをしておいた方がよい
- 8) 政治に口を出して揉めるくらいなら、黙っている方がよい
- 9) 政治的な価値判断は慎重に行うべきだ

選択肢はそう思うからそう思わないまでの 5 件尺度である。

- 1.そう思う 2.ややそう思う 3.場合による 4.あまりそう思わない 5. そう思わない
6.わからない 7.こたえない

Satisficer として識別されたのは 383 人(約 14.5%)であった。「ややそう思う」以外のどの選択肢が選ばれたかは図 C.1 を参照されたい。オンライン意識調査の DK/NA の大半は Satisficer である可能性が高いことを示唆する結果である。Satisficer の選択傾向についてはさらなる調査と分析が必要だが、本稿のデータでは中点と DK/NA 選択が Satisficer の大半を占める(この傾向は筆者が実施した他のオンライン調査にも共通する)。

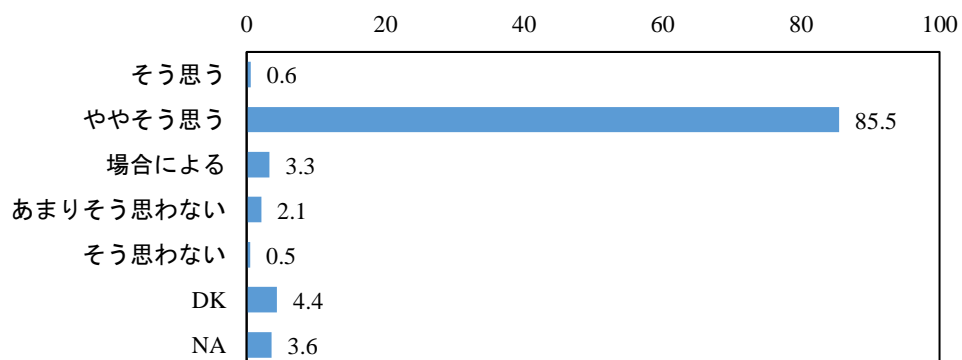


図 C.1 Satisficer 識別用設問の分布

C.2 政治知識

調査費用の関係で、政治知識に関する質問を十分に盛り込むスペースを確保することができなかった。そこで次善の策として、以下の画像を表示し、(1) から (5) においてもっとも適当だと思う選択肢を、それぞれ1つ選択してもらった。選択肢には①～④だけではなくわからない(⑤)とこたえない(⑥)もある点に注意されたい。(1)で③、(2)で③、(3)で④、(4)で①、(5)で②を回答した人をそれぞれ正答としたので、政治知識量は最大値5、最小値0の変数となる。DK/NAは欠損としてここでは処理しない。

2014年12月14日に第47回衆院選が行われます。衆院選の選挙区は、全国で計
(1) 【①195 ②245 ③295 ④345】区あり、47区しかない参院選とは異なります。
 参議院は、1回の選挙で定数の半分の
(2) 【①111 ②116 ③121 ④126】人しか交代しません。
 近年、この違いなどにもとづく衆議院と参議院の「ねじれ」がよく問題視されています。
 ただし参議院で否決されても、衆議院で
(3) 【①全議員の過半数 ②出席議員の過半数 ③全議員の2/3以上 ④出席議員の2/3以上】
 で再可決されれば、法案は成立します。

また、重要な争点をめぐる対立もよく指摘されています。たとえば、集団的自衛権を認める
 閣議決定が行われ、これに対して賛否両論がありました。これに特に強く反対していたのは、
(4) 【①日本共産党 ②次世代の党 ③自民党 ④みんなの党】でした。
 また原発の再稼働を推進していたのは、
(5) 【①日本共産党 ②次世代の党 ③社民党 ④生活の党】でした。

図 C.2.1 政治知識量を測定するための設問用の画像

以下が各項目の度数分布である。政党の位置に関する設問は正答率が相対的に高い。

表 C.2 政治知識設問の度数分布(n=2635)

	①	②	③	④	DK	NA
(1)選挙区定数	7.1%	10.8%	21.9%	7.5%	44.4%	8.2%
(2)参院選当選者	3.3%	8.7%	18.6%	16.9%	44.5%	8.2%
(3)再可決条件	10.8%	12.0%	20.8%	13.9%	34.5%	8.0%
(4)反対政党	47.2%	2.1%	2.1%	7.3%	33.0%	8.3%
(5)推進政党	5.8%	34.2%	4.7%	6.3%	40.3%	8.8%

以下の図は政治知識の総量の分布である。Satisficerを含めると0値にやや歪むが、これを除くと平均して1問あるいは2問程度の正答率となる。(1)から(3)の政治制度に関する設問の正答率が低く、それが平均正答数の低さの原因となっている。なお、Satisficerが0値に集中しているため、真の政治知識の分布は厳密には未知であるが、上記の通りSatisficerには若年層と低関心層が多い点を勘案すれば、平均正答率は1問程度と見てよい。

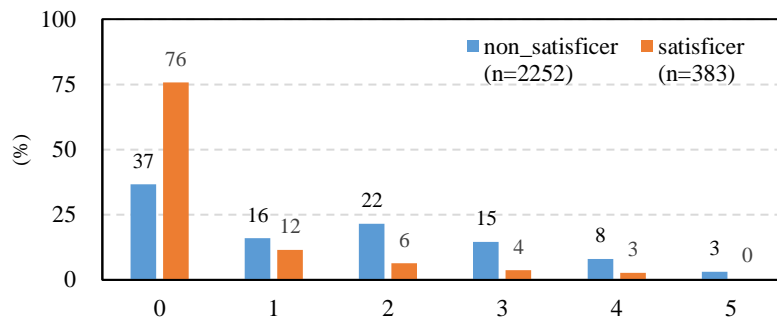


図 C.2.2 政治知識の分布

C.3 政治関心

用いた質問文は以下の通りである。

「選挙のある、なし、に関わらず政治に関心をもつ人もいますし、もたない人もいます。あなたは、政治に対する関心をどの程度おもちでしょうか」

選択肢はとても関心があるからほとんど関心がないまでの4件尺度である。実際の画面では縦一列に表記し、かつ4.と5.の間にはスペースを設けている。

- 1.とても関心がある 2.やや関心がある 3.あまり関心がない 4.ほとんど関心がない
5.わからない 6.こたえない

表 C.3 政治関心の度数分布(n=2635)

とても関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	ほとんど関心がない	DK	NA
26.0%	43.0%	17.6%	8.2%	2.6%	2.7%

政治関心はどの政治意識調査でも共通して DK/NA 率が低い。本調査では政治関心の DK/NA 率は約 5.3%であり比較的多いという印象を受けるが、その多くは Satisficer なので(88名, 約 55.7%), 実質的には 2.6~2.7%程度である。JES など質の高い政治意識調査とそれほど大差ない DK/NA 率だといってよい。

C.4 デモグラフィ

性別、年齢については、楽天リサーチに登録されている情報をそのまま使用した。性別は 1=男性, 2=女性である。学歴は 1=高卒程度, 2=専門・短大卒, 3=4年生大学卒, 4=大学院卒, である。学歴のみ全国的な分布と比較するとやや偏りがある。

表 B.5 デモグラフィ変数の記述統計量

	min.	max.	avg.	s.d.	N
性別	1	2	1.5	0.5	2635
年齢	20	79	48.2	14.6	2635
学歴	1	4	3.2	0.9	2487

付録 D Satisficer 除去前と除去後の DK 率の比較

Satisficer を含むデータは実証的知見を棄損する可能性がある。処置群にある刺激を与えても、Satisficer はその刺激に対して反応せず、そのため刺激の効果が過小に評価されるのであり、それゆえに実験によっては Satisficer を分析対象から除外する方が望ましい。そこで本稿のデータを用いて、過小評価バイアスが Satisficer を含むことで発生するのか、簡単な検証を試みる。

Satisficer 除去前と除去後の DK 率の推移をまとめたものが表 D である。本稿の実験では Satisficer による知見の棄損という問題はほとんど見られない。これは本稿の実験が Satisficer でも容易に受容できるものであったからか、それとも他に原因があるのか不明である。Satisficer を除去すべきか否かについていうと、上記結果によれば「どちらでもよい」ということになる。

表 D Satisficer 除去前と除去後の DK 率の比較

	DK 率	Satisficer 除去前		DK 率	Satisficer 除去後	
		N	統制群との差(%)		N	統制群との差(%)
集団的自衛権						
統制群	17.6%	393		13.0%	345	
政策	10.5%	438	-7.1%	6.6%	379	-6.4%
政党	16.3%	460	-1.3%	10.0%	389	-3.0%
政策+政党	13.7%	446	-3.9%	9.6%	385	-3.4%
道州制						
統制群	24.7%	393		20.6%	345	
政策	15.1%	438	-9.6%	11.3%	379	-9.3%
政党	27.4%	460	2.7%	21.9%	389	1.3%
政策+政党	17.7%	446	-7.0%	13.2%	385	-7.4%

付録 E 情報提示の効果の推定結果：共変量による統制

情報提示の DK に対する効果の期待値は統制群と処置群の DK 率の差分となる。しかし無作為配分は推定値の標準誤差が大きくなりがちであり、そのため推定値の有効性を高めるために共変量の効果を統制することがある。以下では共変量を統制して再度分析し、本論の分析結果の妥当性を検討していくことにしたい。ここでは Satisficer を含めて分析しているが、先に述べたように本稿のデータにおいては DK 率の変動に Satisficer はほとんど影響を与えないので、これを除外しても結果は変わらない。

共変量による統制前と統制後の推定結果を整理したものが表 E である。共変量の有無で推定結果が若干変化するところもあるが、おおむね一致している。推定値が変化する理由は、共変量を投入した場合、200 近いサンプルを欠損として処理することになるからであろう。

母比率の差の検定と異なるのは、集団的自衛権の DK に対する政策+政党情報の効果である。

表 E 中に赤字で示す通り，共変量を投入すると標準誤差が小さくなり有意となる。そのため政策＋政党情報の効果については慎重な解釈が必要である。現時点でどちらの結果を採用すべきかは難しい問題であり，そのためにはさらなる追加的な分析が求められる。

表 E DK を従属変数とする OLS の結果

	集团的自衛権						道州制					
	共変量なし			共変量あり			共変量なし			共変量あり		
	係数	標準誤差		係数	標準誤差		係数	標準誤差		係数	標準誤差	
政策	-0.071	0.024	*	-0.057	0.021	*	-0.096	0.028	*	-0.076	0.025	*
政党	-0.013	0.024		-0.031	0.021		0.027	0.028		0.008	0.025	
政策+政党	-0.039	0.024		-0.040	0.021	†	-0.07	0.028	*	-0.068	0.025	*
性別				0.041	0.015	*				0.089	0.019	*
年齢				-0.001	0.001	*				-0.001	0.001	*
教育程度				0.003	0.008					-0.028	0.010	*
政治関心				-0.05	0.009	*				-0.066	0.011	*
政治知識				-0.034	0.006	*				-0.032	0.007	*
Satisficer				0.118	0.024	*				0.119	0.030	*
切片	0.176	0.018	*	0.317	0.053	*	0.247	0.020	*	0.451	0.065	*
観察数		1737			1600			1737			1600	
adj R ²		0.006			0.124			0.015			0.133	

※ *は5%，†は10%水準（両側検定）で統計的有意であることを示す

付録 F 政党支持の操作的定義と分類法

F.1 政党支持，意見反映政党，政権担当能力政党の操作的定義

政党支持の質問文は以下の通り。

「どこの政党に投票するかは別として、あなたは普段、どの政党を支持していますか」

選択肢は自民党からこたえないまでの計 10 であるが、1~6 までの選択肢の順序は、調査の際にはランダム化している。なお、Single Answer 形式の質問なので 1 つしか選べない。

1. 自民党 2. 民主党 3. 公明党 4. 共産党 5. 維新の党 6. 次世代の党 7. その他()
8. そのような政党はない 9. わからない 10. こたえない

さて以上の質問では無党派層を分類できないので、意見反映政党と政権担当能力政党の 2 つの質問を用いて、拒否層を操作化する。それぞれの質問文は以下の通りである。上段が意見反映政党，下段が政権担当能力政党の質問文である。

「日本の政党の中で、あなたの考えをおおむね反映している政党はありますか。考えを反映していると思う政党をすべてあげてください。」

「あなたは、どの政党が政権を担当する能力があると思いますか。政権担当能力があると思う政党をすべてあげてください。」

選択肢は政党支持と同じだが、異なるのはこれら2つの設問は Multiple Answer だということである。なお MA 形式の質問である都合上、そのような政党はない～NA を選択した回答者は、自民党～その他政党まで選択できない設定としている。度数分布は以下の表 F.1.1 に示す通りである。

表 F.1.1 支持政党, 意見反映政党, 政権担当政党の分布

	支持政党 (S. A.)	意見反映政党 (M. A.)	政権担当政党 (M. A.)
自民党	26.3%	21.6%	45.1%
民主党	6.8%	5.8%	7.7%
公明党	2.0%	4.0%	3.0%
共産党	4.4%	7.3%	3.0%
維新の党	6.5%	11.4%	7.8%
次世代の党	0.8%	4.3%	2.3%
その他	1.2%	1.1%	0.2%
そのような政党はない	35.8%	36.8%	27.3%
DK	9.5%	16.7%	15.4%
NA	6.7%	6.0%	5.4%

無党派の中には、意見反映政党および政権担当政党の質問の際に政党名をあげた回答者とそうではない回答者がいる。本稿では無党派と回答した人の中で、意見反映政党と政権担当政党の設問においてどれでもよいので1つでも政党名をあげた人を「無党派」とし、1つも政党をあげなかった人を「拒否層」とした。より正確な言い方をするならこれら2つの設問において、両者ともに「そのような政党はない」と回答した人を拒否層とした。DK/NA と回答した人は含まれていない。もちろん、支持政党をあげた人の中にも1つも政党名をあげなかった人は存在するが、数としては圧倒的に無党派の中に多い。度数分布は以下の表 F.1.2 に示す通りである。拒否層は決して少なくなく、支持なしと回答した人の半数近く存在する。

表 F.1.2 支持あり, 無党派, 拒否層の分布

	n	%
支持あり	1264	48.0%
無党派	536	20.3%
拒否層	407	15.4%
DK/NA	428	16.2%
N	2635	100%

F.2 支持態度の分布と分類法の妥当性の検証

F.1 で述べた方法で操作化した拒否層が政党を拒否する層なのかは、別途検証が必要である。そこで政党への感情温度を用いて、拒否層の特徴を明らかにする。図 F.2 は本調査で尋ねられている7つの政党への感情温度の平均値を、支持態度別に整理したものである。支持ありと無党派の間にはそれほど大きな平均値の差がない一方で、拒否層との間には差があることがわかる。拒否層はどの政党に対しても総じて冷たい感情を抱いており、ここから本稿の操作化には妥当性があるといえる。なお図には記していないが、政党支持の設問で DK/NA と回答した層の平均値と比較しても、拒否層のそれは明らかに低い値を示す。

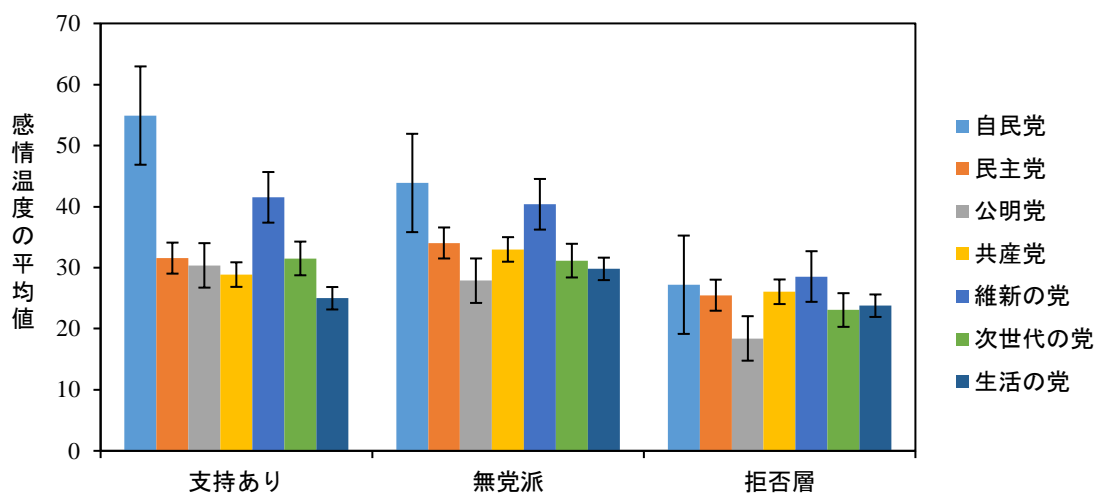


図 F.2 支持態度別の政党感情温度平均値と 95% C. I.

表 F.2 は支持態度を与党(自民), 野党, 無党派, DK と分けた上で、拒否層との感情温度の平均値の差を検証した結果である。5%水準以下で有意な平均値の差があるとみなせるものは赤字で表記している。唯一、自民支持者の共産党に対する感情温度が拒否層のそれよりも有意に低いという結果となったが、それ以外は高いか、差があるとはいえないという結果である。この結果からも本稿の分類法には妥当性があるといえる。

表 F.2 政党感情温度の平均値の差の検定結果(基準:拒否層)

	自民党	民主党	公明党	共産党	維新の党	次世代の党	生活の党
自民支持者	-42.991*	0.471	-14.423*	5.472*	-10.416*	-11.362*	1.668
自民以外支持者	-8.976*	-14.032*	-9.011*	-12.950*	-16.013*	-4.886*	-4.821*
無党派	-16.666*	-8.553*	-9.458*	-6.932*	-11.831*	-8.089*	-6.030*
DK/NA	-12.549*	-6.812*	-9.293*	-3.260	-5.120	-7.373*	-6.937*

※ *は 5%水準 (両側検定) で統計的に有意であることを示す

付録 G DK 回答を従属変数とする推定結果（図 3）の詳細

表 G.1 は集団的自衛権，表 G.2 は道州制に関する DK 回答を従属変数とした推定結果（OLS）である。この推定結果に基づき，図 3 を作成している。なお，政党支持の質問で DK と回答した人の結果については図 3 では省略している。

表 G.1 集団的自衛権についての OLS 推定の結果

	支持あり		無党派		拒否層		DK					
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差				
政策	-0.060	0.021	*	-0.047	0.038	0.010	0.061	-0.183	0.114			
政党	-0.060	0.021	*	-0.040	0.038	0.140	0.064	*	-0.182	0.104	†	
政策+政党	-0.082	0.021	*	-0.103	0.039	*	0.141	0.058	*	0.005	0.111	
性別	0.031	0.016	*	0.021	0.029	0.058	0.043	0.016	0.089			
年齢	-0.000	0.001		-0.004	0.001	*	-0.003	0.002	†	-0.002	0.003	
教育程度	-0.016	0.009	†	-0.015	0.016	0.025	0.024	0.043	0.045			
政治関心	-0.015	0.011		-0.051	0.018	*	-0.056	0.024	*	-0.081	0.050	
政治知識	-0.019	0.005	*	-0.019	0.011	†	-0.042	0.016	*	-0.085	0.036	*
切片	0.206	0.059	*	0.498	0.107	*	0.215	0.139	0.569	0.283	*	
観察数	740		343		225		129					
adj R ²	0.068		0.146		0.160		0.136					

※ *は 5%，†は 10%水準（両側検定）で統計的有意であることを示す

表 G.2 道州制についての OLS 推定の結果

	支持あり		無党派		拒否層		DK					
	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差	係数	標準誤差				
政策	-0.045	0.031	-0.102	0.052	†	-0.036	0.072	-0.286	0.119	*		
政党	-0.012	0.031	0.051	0.052	0.021	0.075	-0.119	0.108				
政策+政党	-0.066	0.031	*	-0.152	0.053	*	0.033	0.068	-0.181	0.116		
性別	0.086	0.023	0.031	0.039	0.113	0.051	*	0.188	0.093	*		
年齢	-0.001	0.001	-0.001	0.001	-0.002	0.002	-0.006	0.003	†			
教育程度	-0.041	0.012	*	-0.060	0.022	*	0.040	0.028	-0.009	0.047		
政治関心	-0.029	0.017	†	-0.094	0.025	*	-0.057	0.028	*	-0.112	0.052	*
政治知識	-0.015	0.008	†	-0.034	0.015	*	-0.046	0.019	*	-0.043	0.037	
切片	0.303	0.086	*	0.743	0.146	*	0.155	0.163	0.794	0.295	*	
観察数	740		343		225		129					
adj R ²	0.076		0.190		0.118		0.192					

※ *は 5%，†は 10%水準（両側検定）で統計的有意であることを示す

付録 H 政治知識と実験群の交互作用

本稿の主たる目的ではないが、集団的自衛権や道州制といった難しい争点を検討する上で、提示された政策に関する情報の効果と一般的な政治知識はどのような関係があるのか、つまり一般的な政治知識は実験刺激を条件付けるのかは重要な論点となる。そこで補足的な分析として、各実験群ダミーと政治知識の交差項を追加した分析を行った。結果は表 H の通りであり、一般的な政治知識と実験群の交差項の係数は統計的有意ではなく、したがって統制群と処置群の差分は、有権者が保有する一般的な政治知識によって変化するとはいえない。

表 H 政治知識との交差項を投入した OLS 推定の結果

	集団的自衛権		道州制			
	係数	標準誤差	係数	標準誤差		
交差項						
政策*知識	0.016	0.020	0.038	0.025		
政党*知識	-0.000	0.020	0.022	0.025		
政策+政党*知識	0.002	0.020	0.039	0.025		
主効果						
政策	-0.059	0.020	*	-0.085	0.026	*
政党	-0.037	0.020	†	-0.003	0.026	
政策+政党	-0.042	0.020	*	-0.086	0.026	*
政治知識	-0.049	0.015	*	-0.067	0.019	*
性別	0.035	0.015	*	0.089	0.019	*
年齢	-0.024	0.008	*	-0.02	0.010	*
教育程度	-0.004	0.007		-0.025	0.009	*
政治関心	-0.042	0.008	*	-0.061	0.011	*
切片	0.078	0.027	*	0.07	0.034	*
観察数		1437			1437	
adj R ²		0.103			0.125	

※ *は 5%, †は 10%水準(両側検定)で統計的有意であることを示す